

SPA300/SPA500シリーズIP Phoneでのネットワークアドレス変換(NAT)サポートパラメータの設定

目的

セッション開始プロトコル(SIP)は、IPベースのネットワークでセッションを作成、管理、および終了するために使用されるシグナリングプロトコルです。SIPは、コール管理のメカニズムです。また、ユーザロケーションの確立、機能ネゴシエーションの提供を行い、セッションの参加者全員がサポートする機能について合意し、進行中のセッションの機能に変更を加えることができます。

Network Address Translation (NAT ; ネットワークアドレス変換) は、IPパケットヘッダー内のトラフィックルーティングデバイスを通過する際にIPアドレスを変更します。内部IPアドレスを非表示にするセキュリティを提供します。

このドキュメントの目的は、SPA300およびSPA500シリーズIPフォンでNATサポートパラメータを設定する方法を説明することです。

該当するデバイス

- ・ SPA300シリーズIP電話
- ・ SPA500シリーズIP電話

NATサポートパラメータの設定

注：実際のSPA300またはSPA500シリーズのIP PhoneでシグナリングプロトコルをSIPに設定すると、ナビゲーションキーを使用して[Device Administration] > [Call Control Settings] > [Signaling Protocol SIP]にににに移動します。

ステップ1:Web設定ユーティリティにログインし、[Admin Login] > [Advanced] > [Voice] > [SIP]を選択します。[SIP Parameters]ページが開きます。

SIP Parameters

Max Forward:	70	Max Redirection:	5
Max Auth:	2	SIP User Agent Name:	\$VERSION
SIP Server Name:	\$VERSION	SIP Reg User Agent Name:	User
SIP Accept Language:	English	DTMF Relay MIME Type:	application/dtmf-relay
Hook Flash MIME Type:	application/hook-flash	Remove Last Reg:	no
Use Compact Header:	no	Escape Display Name:	no
SIP-B Enable:	no	Talk Package:	no
Hold Package:	no	Conference Package:	no
Notify Conference:	no	RFC 2543 Call Hold:	yes
Random REG CID On Reboot:	no	Mark All AVT Packets:	yes
SIP TCP Port Min:	5060	SIP TCP Port Max:	5080
CTI Enable:	no	Caller ID Header:	PAID-RPID-FROM
SRTP Method:	x-sipura	Hold Target Before REFER:	no
Dialog SDP Enable:	no	Keep Referee When REFER Failed:	no
Display Diversion Info:	no		

SIP Timer Values (sec)

SIP T1:	.5	SIP T2:	4
SIP T4:	5	SIP Timer B:	16
SIP Timer F:	16	SIP Timer H:	16
SIP Timer D:	16	SIP Timer J:	16
INVITE Expires:	240	ReINVITE Expires:	30

ステップ2:[NAT Support Parameters]領域まで下にスクロールします。

SDP Payload Types

AVT Dynamic Payload:	101	INFOREQ Dynamic Payload:	
G726r32 Dynamic Payload:	2	G729b Dynamic Payload:	99
EncapRTP Dynamic Payload:	112	RTP-Start-Loopback Dynamic Payload:	113
RTP-Start-Loopback Codec:	G711u	AVT Codec Name:	telephone-event
G711u Codec Name:	PCMU	G711a Codec Name:	PCMA
G726r32 Codec Name:	G726-32	G729a Codec Name:	G729a
G729b Codec Name:	G729ab	G722 Codec Name:	G722
EncapRTP Codec Name:	encaprtsp		

NAT Support Parameters

Handle VIA received:	no	Handle VIA rport:	no
Insert VIA received:	no	Insert VIA rport:	no
Substitute VIA Addr:	no	Send Resp To Src Port:	no
STUN Enable:	no	STUN Test Enable:	no
STUN Server:	10.1.1.11	EXT IP:	
EXT RTP Port Min:		NAT Keep Alive Intvl:	15

Linksys Key System Parameters

Linksys Key System:	no	Multicast Address:	224.168.168.168:6061
Key System Auto Discovery:	no	Key System IP Address:	
Force LAN Codec:	none		

ステップ3:[Handle VIA Received]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、IPフォンはVIAヘッダーで受信したパラメータを取得するときにIPアドレスを使用します。デフォルトは no です。

ステップ4:[Handle VIA report]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、IPフォンはVIAヘッダーのレポートパラメータを取得するときにUDPポートを使用します。デフォルトは no です。

ステップ5:[*Insert VIA received*]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、IPから受信したパラメータとIPから送信したVIAのパラメータが異なる場合、VIAヘッダーに受信したパラメータが挿入されます。デフォルトは no です。

ステップ6:[*Insert VIA rport*]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、受信したIPと送信したIPとの間に違いがある場合に、VIAヘッダーにレポートパラメータが挿入されます。デフォルトは no です。

ステップ7:[*Substitute VIA Addr*]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[Yes]を選択すると、NATマッピングされたIPがVIAヘッダーで使用されます。デフォルトは no です。

ステップ8:[*Send Resp To Src Port*]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[Yes]を選択すると、応答はVIA送信ポートではなく要求ソースポートに送信されます。デフォルトは no です。

ステップ9:[*STUN Enable*]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[Yes]を選択すると、NATマッピングの検出にSTUNが使用されます。デフォルトは no です。

ステップ10:[*STUN Test Enable*]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[Yes]を選択すると、IP PhoneはNATタイプの動作として動作します。IP PhoneはSTUNサーバに接続し、すべての登録要求で警告ヘッダーを報告します。デフォルトは no です。

ステップ11:[*STUN Server*]フィールドに、STUNサーバのIPアドレスまたはドメイン名を入力します。これにより、NATはSTUNサーバとの接続を介してマッピングできます。

ステップ12:IPフォンの実際のIPアドレスの代わりに使用する外部IPアドレスを[*EXT IP*]フィールドに入力します。デフォルトは空白です。

ステップ13:IP PhoneのプライベートUDPポートの代わりに使用する最小の外部ポートマップ番号を[*EXT RTP Port Min*]フィールドに入力します。デフォルトは空白です。

ステップ14:NAT Keep Alive Intervalフィールドに、キープアライブに使用する2つのパケット間の最大間隔 (秒) を入力します。デフォルト値は 15 です。

ステップ15:[**Submit All Changes**]をクリックして、設定を保存します。